

## 温泉地紹介

# カンボジア, オウラル地域の温泉 Hot Spring in Aural Area, Cambodia

伊達潤子<sup>1)</sup>

Junko DATE<sup>1)</sup>

(平成 20 年 2 月 26 日受付, 平成 20 年 3 月 14 日受理)

## 1. はじめに

日本人は, 温泉が好きである. 日本には温泉の湧出地が多数あり, 多くの日本人が温泉に浸かることを楽しみとしているといっても, 過言ではないだろう. 現在では行楽のための温泉地となっているところも多いが, 日本人が温泉で癒されると感じるのは, 文化的背景も影響しているに違いない. 野本 (2006) は, 湯は火と水の結合体であり, 霊力を持ち, 温泉湧出地は聖地として守られてきたと述べている. 日本人にとって, 温泉は霊的にも身体的にも癒される場所であるのかもしれない.

それに比べて, カンボジア王国では「温泉」はほとんど知られていない. 温泉湧出地がそもそも少ないこと, 年間平均気温が 25°C 以上あり湯で体を温める必要がないこと, 等が理由として考えられる. カンボジアには自然保護区域が多くあり, ヒトの住んでいない地域もあるので, 温泉湧出地は実はもっと多いのかもしれないが, 「カンボジアの温泉」といえば, タックボ温泉くらいしか情報がない. カンボジアの人々にとっての「温泉」はどのように位置づけられているのか, 温泉地での聞き取り, および資料から情報収集した結果を紹介する.

## 2. カンボジア王国コンボンスプー州オウラルの温泉

カンボジア王国は, 南西はタイ湾に面し, 西はタイ, 北はラオス, 東はベトナムと接するインドシナ半島南西部にある 18 万 1 千平方キロの面積を持つ国 (Fig. 1) である. 雨季のメコン河の増水により, 面積を増大させるトンレサップ湖 (Balillex, 2003) を含む湿地は, 国土の約 30% を占める. カンボジアの 2005 年統計推定人口は約 1336 万人で, そのうち 89.7% が地方人口である. 民族的には, 90% がクメール, 残り 10% のうち, 中国とベトナムがほとんどを占め, そのほかにチャム, ビルマ, 山岳部族などがある (National Institute of Statistics, 2005). カンボジア王国の南西部にはカンボジア国最高峰であるオウラル山 (1,813 m) を含むカルダモン山脈が連なっている. この地域はカンボジア政府によってカルダモン森林保全地域とオウラル山自然保護区域に指定されている (SCW, 2006). カンボジアの首都プノンペンから西 120 km に位置するコンボンスプー州西部に, タックボ温泉 (Fig. 2) がある. コンボンスプー州西部にはカルダモン山脈の一部が迫っている. プノンペンからコンボンスプー州までは舗装路を車で約 1 時間, そこから未舗装路 (Photo 1) を揺

<sup>1)</sup> 国際協力機構<sup>注1)</sup> カンボジア事務所 カンボジア国プノンペン市モニボン通り 440A. <sup>1)</sup> Cambodia Office, Japan International Cooperation Agency, P.O. Box 613, #440A, Monivong Blvd., Phnom Penh, Cambodia.



Fig. 1 Map of Kingdom of Cambodia (Circle point shows a hot spring in Cambodia)

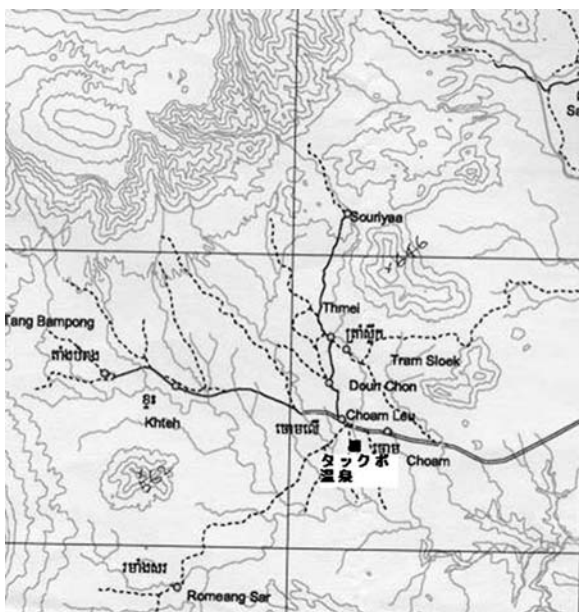


Fig. 2 Geographical Map of Aural area

られながら約3時間車で走ると、タックポ温泉に着く。温泉の手前には、神像が安置されている (Photo 2).

この周辺は、リン酸や花崗岩の産地であるという (SCW, 2006). タックポ温泉を含む周辺地域ではリゾート開発が始まり、源泉 (Photo 3) はコンクリートで周りを固められ、プールのように造成されていた。源泉温度は摂氏約70度である。1年前に当地へ観光客を連れてきた経験のある運転手によると、その当時はプールが無く、複数の熱い池のようなものがあっただけだったという。当時の池と同等のもの (Photo 4) がひとつだけ残っていた。



Photo 1 Road to Aural area



Photo 2 Overview of Tak Po spring



Photo 3 Main source of hot spring

### 3. 村人の語るタックポ温泉

温泉が湧出している場所のすぐ近くにトタンがけの小屋があり、その中には神像が2体、安置されていた (Photo 5)。小屋で座っている2人の老女に話を聞いてみると、ここに祀られているのは、タウ爺さんとター婆さんの神様でこの土地の神様であると言う。また温泉の手前に安置されているのは、リエックン爺さんで、温泉の神様である<sup>注2)</sup>。以下に、この老女2名から聞き取った内容を記す。

「私たちの村はタウタックポ<sup>注3)</sup>村といい、スイ族の村である。村長が決めた担当者が交代で、この温泉を守っている。村長からの要請で、私たちは2002年から温泉に来るようになった。それ以前は、自分が必要なときだけ来ていた。ここを訪れる人々は、温泉水を持ち帰り、聖水として肌につけたり体にかけてりする。健康祈願のためである。2002年から2003年にかけては来訪者も多く、週末にはプノンペンなどから観光客がやってきていた。彼らを目当てに、家鴨のゆで卵や伝統薬の店も出していた。しかし今は、ほとんど人が来ない。中国の業者がリゾート開発をするという、入ってきたからだ。ここに安置しているスイ族の神様を外に移して、中国の神様を持ってくるというので、問題になっている。私たちの村はこれに反対している。神様を守るために、交代でこの温泉にきている。」

### 4. 観光資源としての温泉と、人権問題としての少数民族保護

2004年5月、オウラル地域では、スイ族の住域に関わるエコツーリズムの土地利権がカンボジア企業に譲渡され、リゾート・ゴルフ場開発が政府によって許可された。それまでオウラル地域では、NGOであるルーテル財団がカンボジア政府環境観光省と協力して、コミュニティ開発の一環として、スイ族による温泉エコツーリズムプロジェクトを支援していたが、上記の土地譲渡に基づき、2004年10月に当該活動は中止を言い渡された (OHCHR, 2007)。

国連人権報告 (2007) では、温泉を含む当域はスイ族にとって文化的・霊的に重要な場所である



Photo 4 Another source of hot spring



Photo 5 Traditional spirits statues



Photo 6 Suspended Spa resort construction

にもかかわらず、「スイ族から土地や森林を搾取している」と厳しく指摘している (OH-CHR, 2007)。またグローバル・ウィットネス (2004) は「これらの問題は政府の一部の役人による汚職であり、違法である」と報告している。オウラル地域を支援しているルーテル財団 (2005) は、国際企業による温泉開発にスイ族が反対して、現在一時的に企業開発が中断していると述べている。

温泉から 1 km ほど離れたところに、建設途中で放置されているリゾート施設 (Photo. 6) があった。また、タックポ温泉へ向かう道路も、整備途中で中断されたのか、穴が各所にあり、雨季の浸水で崩れていた。温泉そのものも、コンクリートでまわりを固められたものの、鉄骨などがむき出しのまま、放置されている。

## 5. おわりに

温泉は誰のものか、どう使われるべきなのかを、筆者はタックポ温泉で考えさせられた。もともと山の中にあったタックポ温泉は、秘境の「熱い湯がでる聖地」としてスイ族に守られてきたと思われる。その後、村落開発がはいるにつれて「スイ族の伝統的な温泉地」として、エコツーリズムが生まれ、スイ族が観光客相手に行っていた土産物屋などを通じて、彼らの所得向上につながってきた。これに乗じた形で、さらに大きなリゾート開発計画ができたが、その過程で村民・政府・業者・支援団体などの各関係機関の軋轢が生じ、温泉自体が「誰も訪れない」中途半端な形態になってしまった。

現在のタックポ温泉問題は、観光・環境資源である温泉をめぐる住民と介入者の間で、複雑化している。スイ族にとっては、神様の保護と聖地の死守がかかっている問題である。政府にとっては、観光資源の利用をどう行なうかという問題だろう。また、国連団体

や NGO から見れば、スイ族という少数民族の人権保護に関わる問題であるともいえる。タックポ温泉は湧出温度が約 70 度で、手を入れても、すぐ我慢できなくなるほど熱い。タックポ温泉に関わる問題も、しばらくは熱くて手が付けられそうにないが、今後の動向を見守っていきたい。



## 注

- 1) 本稿の内容は、カンボジアにおける国際協力機構の業務に関連するものではなく、筆者個人の研究内容であることを明記する。
- 2) カンボジアでは上座仏教が多く広まっているが、アニミズム（精霊信仰）も根強く残っている。河や山、木などの近くに、その精霊の祠を祀る。祠の中には仏像が安置されていることが多いが、カンボジア人によれば、それらは土地の神様の姿であると言う。ここでいう「爺さん」及び「婆さん」は、神様につける尊称である。
- 3) タウは、土地の神であるタウ爺さんの名前から取ったもの。タックポとは、直訳すれば「熱い水」で、温泉（熱水泉）を意味する。

## 引用文献

- Balillex R. (2003) : The Tonle Sap Great Lake : A Pulse of Life, 7, Asia Horizon Books Co. Ltd., Bangkok, Thailand.
- Global Witness (2004) : Taking a Cut : Institutional Corruption and Illegal Logging in Cambodia's Aural Wildlife Sanctuary—a case study, Report by Global Witness, 56-57.
- Lutheran World Federation (2005) : LWF Criticizes Land Concession Policy in Cambodia, LWF News, 27.04.2005.
- National Institute of Statistics (2005) : Statistical Yearbook 2005, 32, Ministry of Planning, Kingdom of Cambodia.
- 野本寛一 (2006) : 神と自然の景観論 : 信仰環境を読む, 168-171, 講談社, 東京.
- OHCHR (2007) : Economic land concessions in Cambodia : A human rights perspective, Cambodia Office of the High Commissioner for Human Rights, United Nations, Phnom Penh, Cambodia.
- SCW (2006) : Atlas of Cambodia : National Poverty and Environment Maps, 6-7 & 54-59, Save Cambodia's Wildlife, Phnom Penh, Cambodia.